

# ピアノ初学者に対する指使いに焦点を当てた指導について

ある学生の指導観察からの考察

A Study of Instruction on Fingering for Beginners  
Consideration from Observation of a Certain Student

鎌田 千佳

Chika KAMADA

ピアノ初学者は、適切な指使いについて迷いが多いことに着目し、ピアノ基礎教本（バイエル等）の初期段階より指使いに焦点を当てた指導を行った。その中の学生の2年間の指導記録をインタビューと併せて分析した結果、指使いと音楽表現の相互関係を意識して課題曲に取り組むことで、早い段階から他者からの援助なしでもスムーズな演奏が目指せる力の獲得の可能性が示された。

キーワード：初学者 指使い 初期段階 工夫と選択 音楽表現

## 1. はじめに

保育者・教員養成校などにおいてのピアノ指導については、常に指導の工夫が課題となっており、様々な提案と研究がなされている。入学時においてピアノを習った経験のない学生（以下、初学者とする）は年々増加傾向にあり、彼らの「わからないこと」には、読譜に関する事の次に「指使い」が挙げられることが多い。

保育者として現場で取り扱い易い音楽表現方法の一つに「弾き歌い」がある。弾き歌いは単にピアノを弾き、同時に歌を歌うことだけではなく、学生には意欲的に表現意識を高め、自信をもって活動できる基礎力を身につけて欲しいと筆者は常に考えている。その基礎力の一つに指使いの工夫による運指の選択力があり、その能力は音楽表現に繋がると考える。

さあ弾いてみようとなった時に、楽譜から音の高さ、音符の長さ、そしてリズムが理解できても、どの指で弾いたらよいのか、指使いに不安を感じるケースが見られる。学生の音楽への意欲が「弾きたい」「歌いたい」と高まり、表現

へのイメージを獲得できても、それを正しく表現する演奏ができないがために、ピアノや弾き歌いに対して消極的になってしまう姿を幾度となく見てきた。

筆者の勤務校では、必ずしも同じ学生を2年間に亘って担当するわけではない。したがって、初年次ピアノ基礎教本の指導で指使いと演奏表現の関わりに焦点を当てても、次年次に担当しないケースもあることから、弾き歌い課題の演奏に及ぼす影響、及び学生の意識も含めた観察のチャンスが少ない。しかし、2020年度は一部の学生を入学時より2年間続けて指導する環境が得られたため、その中からピアノ初学者一名について、2年間のピアノ学習の様子と意識変化を観察する機会を得た。2019年度から2020年度までの2年間の指使いに焦点を当てた指導記録、学生の振り返りレポート、及びインタビューから学習の様子を分析し、今後の指導法への可能性を含め考察した。

## 2. 研究の背景と目的

保育者になることへの意識が高く、かつ環境、状況が許されるピアノ初学者の中には、入学後のピアノに対しての不安や戸惑いが起こる事を予測して、入学前から個人的にピアノを習いに行くケースがある。筆者は2020年度入学学生のうち27名を担当した。その内訳は、初学者が13名、幼少期に1年程度の経験があった学生が2名、計15名で、初学者の割合は50%以上になる。この中で、入学前に外部で学習の機会を得ていた学生は6名で、初学者の半数以下の割合であった。この15名の学生は2年間の授業で保育・教育現場で活用できる弾き歌いの演奏及び表現技術を習得しなくてはならないのである。

筆者は、初学者だけではなくすべての担当学生に次の2点を留意して指導している。保育現場において自身の表現したい音楽を正しく表現する演奏技術と感性を身に付けること、そのために、他者からの援助なしで自らの理想の演奏表現を可能にする練習方法を身に付けることである。

ピアノ経験者の場合、すでに正しい練習方法を身に付けている学生は問題ないが、安定した練習方法が身に付く前に卒業になる場合が見受けられる。そこでは、自己流の練習方法に固執してしまう、あるいは練習方法の修正に時間がかかり過ぎて時間切れに至ることがある。

このような指導経験から、現場にでるまでの短期間で確実に安定した前述の練習方法を身に付けるための方法の一つとして、ピアノ初学者のピアノ基礎教本（バイエルやブルグミュラーなど）の課題の取り組みの初期段階から、指使いに焦点を当てた指導をし、常に表現と指使いの関連性を意識させ、学習者が目指す表現に相応しい指使いを自身で決定する力を身に付ける。という指導法を考えた。そして、指使いに迷うことのない読譜力が身に付けば、卒業後の保育・教育現場において、選曲した曲の準備をより短時間で、他者の援助を受けることなく、自信を

もって進めることが可能になると考える。

三好（2012）は子どもの歌における学生の運指傾向の調査から運指パターンを提案し、村木（2013）は小学校歌唱共通教材の実践から5指の困難を回避する指使いについて、指使いが演奏をスムーズにする援助になることを述べている。木村（2020）は合理的な指使いでスムーズに弾ける指導が大切だと述べているが、このような指導者からの運指指導が、どのように学生に意識づけられ、理想の演奏表現につながるようになるのか、そしてそのための正しい練習方法の習得について、本論では曲からの分析ではなく、学生の観察から考察する。

## 3. 方法

2020年度の担当学生で、前年度から引き続き担当した学生のうち、前年度の初学者は一人であった。本研究ではこの学生を被験者とした。

本研究におけるテーマと倫理配慮、データの取扱い方等を文書および口頭で説明し、同意書に署名捺印を得た上で、振り返りレポートと対面インタビュー及び文書による設問回答を得ている。

- (1) 被験者：千葉敬愛短期大学こども学科学生（女子）
- (2) 被験者のピアノ学習経験：短大入学前までピアノを弾いたことがなかった初学者。入学が決まり、授業開始前の短大の事前授業（初心者講座、1月）を受講。
- (3) 観察と記録：毎時授業時、学生の様子や発言などを観察。受講曲目、注意点、達成度、次回の課題、学生の発言などをノートに記述記録。
- (4) 振り返りレポート：自由記述

被験者の学生に2020年11月中旬実施、入学してからこれまで器楽（ピアノ）の授業を受講してきたことを振り返り、自分自身の変化を含めての自由記述を依頼。

## (5) 対面インタビュー

実施日時：第1回 2020年12月1日  
 第2回 2020年12月15日  
 実施場所：千葉敬愛短期大学内 学生サ  
 ポートルーム I

(6) インタビュー：半構造化面接。設問は次  
 章 4-3 の質問項目 Q1 ～ Q11 の通り。

第1回では筆者の口頭による設問に答え  
 てもらい、同設問に記述回答を依頼。

第2回では記述回答を提出してもらい、  
 その回答についてインタビューを実施。

## (7) インタビュー時の設問の設定：

第1回対面インタビューの前に提出して  
 もらった振り返りレポートの中の言葉も  
 参考にし、この学生の2年間の意識変化  
 と取り組んでいた課題との関連、特に「指  
 使い」に関しての意識の芽生えた時点の  
 発見を目的として設問を設定。

12/18, 2020/1/6

課題：バイエル 100 番,

ブルグミュラー 2 番, 5 番, 弾き歌

い：おべんとう, おかえりのうた,

チューリップ 他 10 曲

➤ 2 年次前期（対面授業 5 回）<sup>1)</sup>

6/16, 6/30, 7/14, 7/25, 7/28

弾き歌い課題：5 曲, 先歌い課題：2 曲

## ➤ 2 年次後期（8 回）

11/3, 11/10, 11/17, 11/24, 12/1, 12/8,  
 12/15, 12/22

弾き歌い課題：10 曲

コード伴奏付け課題：5 曲

この学生は不器用であるが大変熱心に課題に  
 取り組んでいた。大学の入学前事前授業（初心  
 者講座）を受講し、課題もバイエルの最初の課  
 題（12 番）から地道に取り組んでいた。

授業で使用している楽譜が「指づかいつきバ  
 イエル教本」であるため、本人は指番号をみな  
 ながら練習していたようだが、この当時はまだド  
 レミを読むのと同じ意識で指番号を見ており、  
 指使いに対して特別な意識はみられなかった。

前期の試験前（7 月）80 番に取り組む頃、楽  
 譜に対する意識の希薄さを感じ、本人に確認す  
 ると、読譜力の未熟さとリズムの理解の曖昧さ  
 から Youtube 動画に頼り、いわゆる『耳コピ』で  
 練習をすすめている事実を知る。動画は曲を知  
 るために参考にする程度にし、曲の全体像を知  
 ることができれば、できるだけ楽譜を自分で見  
 て読み取り演奏できるように指導した。

## 4. 結果

### 4-1 2 年間の指導の概要

授業実施日、課題曲番号及び音階奏の調名、  
 課題曲目、弾き歌い課題合格曲数を次に示す。

## ➤ 授業実施日：1 年次前期（授業数 14 回）

2019/4/10, 4/17, 4/24, 5/8, 5/15, 5/22,  
 5/29, 6/12, 6/19, 6/26, 7/3, 7/10, 7/13,  
 7/17

課題曲番号：バイエル 12, 14, 15, 18, 29,  
 35, 37, 46, 48, 49, 52, 58, 60

音階（C.G.D.F.）, 66, 75, 80, 88

## ➤ 1 年次夏休み補習（3 回）

前期の正規授業回数内で課題曲の到達目標  
 が達成できなかったため、学校規定の 3 回  
 までの補習を実施

8/3, 9/3, 9/10

課題：バイエル 94, 96, 100

## ➤ 1 年次後期（14 回）

9/18, 9/25, 10/2, 10/9, 10/19, 10/23,  
 10/30, 11/6, 11/20, 11/27, 12/4, 12/11,

### 4-2 振り返りレポート

対面インタビューの前に2年間の器楽（ピア  
 ノ）の授業について振り返りレポートを提出し  
 てもらった。

一部省略で原文のまま示す。

……（略）今までピアノを弾いてこなかっ  
 たので、本当に弾けるようになるのか不安

で全く自信がありませんでした。(略) 音楽の授業で初心者講座を受けていない初心者の人より少し進むことが出来ました。音符は読むことは出来ていましたが、リズムを理解することが難しく、苦戦することも良くありました。先生やピアノができる人に聞いて少しずつ出来るようになりました。

2年生の初めは、先生に頼ることがありましたが、すこしずつできるだけ人に頼らず自分で考えるようにし、今では指番号もどうしたらやりやすくなるか考えるようにしました。まだまだピアノを上手に弾くことができませんが、これからもピアノの練習を行って行き、子どもたちを楽しめるようにしていきたいと思います。

ここで指番号についての記述があったことは指導の手応えを感じた。この指番号を意識したことについては次の対面インタビュー及び記述回答と併せて時系列に考察する。

#### 4-3 インタビュー及び記述回答の結果

指使いに関するインタビューの設問とその回答を次に示す。設問にはこの学生のピアノに対する2年間の意識変化を問うものも含まれている。

記述回答を原文のまま斜体で示す。なお、同設問での対面インタビューで口頭回答の補足は《 》括弧で、また、回答の意味の補足を（ ）でくくり斜体で示した。

Q1. 入学当初～しばらくの期間、ピアノを練習する時の練習方法は？(Youtubeに頼っていた時期)特に何に困っていましたか？  
リズム、符点！！  
人に見られて弾くというのに慣れていない為、緊張して鍵盤を強く弾くことができなかった。ピアノを弾く強さというのがあまり分かっていなかった(家が電子ピアノということもある)ため、弾きづらかった。

現在は慣れた。

Q2. 自分自身で譜読みに自信が持てた時期はいつ頃ですか？

1年の後期が終わったころ。歌唱教材の簡単なものをやっていたが、ほぼ自分でできたと思う。

何を弾いていた頃？

バイエル 80 番 テストの曲で、自分の中ではよくできたと思うので(最初は弾ける気がしなかった)自信がつくようになった。

Q3. 弾き歌いの課題で当初の問題点は？(不安、困った、分からないこと)

指使い。あまり書いていないので先生からの助言をいただきつつ弾いて練習。歌も歌わないといけない為、どっちかに意識するとどっちかできないというのがあった。どっちかを覚える、慣れることによってできるようになった。

Q4. 指使いを自分で意識できるようになったのはいつですか？

弾き歌いの課題に入ってから。バイエル、ブルグは指番号が書かれている為、あまり意識しなかったが、歌唱教材は自分でやらないといけない為、最初は先生に教えてもらうことが多かったが、少しずつ自分で行うようになった。

Q5. 指使いを決めるときの基準、意識点は？

次の音をなめらかに弾けるようにすることを考え、自分の手が短いことも考慮して決める。《曲の流れを意識、次に行きやすいかどうかを考えた》

Q6. 指使いによって表現方法は変わるといいますか？

変わると思う。まだ強く、弱くなどの表現方法を強く意識して弾いていない(まず弾けることを優先している)が、力を入れる、緩めるコントロールがしやすいなどあると感じる。

それはどんな時？ 具体例はありますか？  
「夕やけこやけ」のように自分で指使いを



決めて弾いたが、強く弾く、緩めるなど意識するとやりづらくなってしまうかもしれないと思う。表現方法を深める為に、また変えることはあるだろう。《強弱を弾きやすい指を考えた》

- Q7. 指使いは一度で決まりますか？ 決まらない場合は、どのようにして決めますか？

決まらないこともあります。(あまりない) 先生からのアドバイスや繰り返し試して自分がやりやすいのを見つけて行います。

- Q8. 特に指使いで苦労した曲は？

ピアノ曲：あまりない気がする。教科書に書いてあったり、先生からの助言で指使いには苦労していない。60番が自分の中で苦戦し、指があまり力が入らず上手く弾けなかったと思う。

弾き歌い曲：ほとんど、すべてのような…。「夕やけこやけ」の印象が強い。歌うのは好きだが弾くのがあまり好きではなかったのですごく時間がかかった。別々に指かえがあるので、どちらかの指につられたり、違う音を弾いたりと難しかった。《他に、「おかえりのうた」、「朝のうた」、「おべんとう」はリズムも難しかった》

- Q9. 1年生のとき「リズムを理解することが難しく…」とありましたが、今、自分自身で分析すると、何がわからなかった？ 何が難しかった？ どのようにして乗り越えましたか？

ピアノができる友だちに教えてもらい、リズムが分かったらひたすら練習 符点や記号などまず意味を知らないときは調べたり教えてもらったりして乗り越えた。リズムは理解してもそれを表現できない。

- Q10. これまでの自分の経験から、ピアノ初学者(初心者)にアドバイスするとしたら、何を？ どのようにアドバイスしますか？ 繰り返し練習を重ね、分からない所はピアノができる人や先生に質問して改善するようにする。“やる気が出た時にやる”とい

うやる気を持たず、少しずつでも練習するのを心がけ強く習慣を身につける。

いきなり両手で弾かず片手から始め、慣れたら両手。最初は自信がないと思うが、1個1個できたことをほめて自信につなげるとやる気につながる。初心者なんだからできないことは多いが、できたことの達成感是谁よりも感じられると思う。頑張れ！！見られてもきんちょうすることに慣れるようにする。

- Q11. 練習方法の変化はありましたか？

どのように課題を練習していましたか？ その成果は？ (自己分析)

\* 1 年次 (ピアノ曲) は？ (春～夏)

符点が付く音符やフラットやナチュラルなどの記号が付いた場合、どのように弾くのか分からず Youtube を見て確認して弾いていた。だが、その曲自体を弾くことはできても身にならないと分かり (先生からの注意も受け) できるだけ自分で弾くように頑張り、今 (現在) 動画を見なくても自分で考えて弾くことができた。

\* 夏以降は？

できるだけ自分で考えるようにし、テストのこともあるので表現方法も身につけるように練習。強弱記号や速度記号など意味を知らなかったので調べるようにした (先生からの助言により) だんだん難しくなってきた、練習してもあまり進まないことに焦り、自信を失いつつも、反面よくここまでできたなという自信もあった。ひたすら繰り返し練習し、80 番から音符を頭で歌うよう意識した。

\* 2 年次 (弾き歌い課題) に取り組んでからは？

弾き歌いにはバイエルやブルグには指番号が多く書かれていたが、あまり無いので自分がどうしたら弾きやすいか (最初は (1 年後期) 先生からの助言を受けつつ) 考えるようにし、繰り返し練習。「お

かえり」<sup>(ママ)</sup>「どんぐり」<sup>(ママ)</sup>で教科書通りではなく、言葉と伴奏が合うように自分で考えて良いということを学び、それを考慮して弾くようにしている。

## 5. 考察

### 5-1 指導記録とインタビュー結果から

継続したこの学生の指導記録と前項のインタビュー回答結果から、学生の指使いに対する意識の変化に、5つの注目すべき事項がみられた。次に時系列に沿って述べる。

#### a. 最初の時点

Q11の回答に、夏までは動画を観て弾いていたが、夏からは自分で調べたり考えたりしたとあるように、この時期以降、知らない記号や言葉を調べる等、楽譜からの気づきも増え、考える練習をするようになる。これは単に楽譜に書かれている音を間違えずに弾くことだけの結果をゴールとするのではなく、学生が「どのように弾きたいか」という表現への意欲につながった重要な時点であったといえる。

#### b. バイエル 88 番の練習開始

本人はインタビューにおいて、リズムの理解に苦労したと回答した。特にバイエル 88 番の課題では、動画に頼らないように心がけ、学生は、リズムの理解の為に音価を正しく理解し演奏することを強く意識して取り組んでいた。更に、16 分音符のフレーズを指くぐりの指使いで弾く箇所（譜例 1）を熱心



（譜例 1）バイエル 88 番より

出典：木村ケイ編、指づかいつきバイエルピアノ教本、全音楽譜出版社、p.66 より一部転載

に練習していた。このフレーズをなめらかに弾きたいという意識のもと、指くぐりの箇所音の強さや質の乱れを聴き分け、なめらかに弾けていることを確認しながら練習することにより、指使いと表現との関連意識が学生に芽生えたと筆者は考える。これは、これまでに比べて短期間で合格レベルの演奏ができたことから判断できる。

#### c. 弾き歌い課題開始（1 年次後期）

記述回答 Q2 にもあったように、学生は試験曲のバイエル 80 番を時間をかけて練習し、試験で間違えずに弾けたことで自信が持てた。この頃、後期の授業開始となり、ピアノ課題曲とは別に弾き歌いの課題が始まる。これまで授業で使用してきたバイエル教本には、音符の全てに指番号が付いていたが、この弾き歌いの教本<sup>2)</sup>では、全てに指番号が付いていないため、ここで指使いの工夫と決定を初めて意識することになった。

#### 5-1-c 事例 1「おかえりのうた」

Q11 に記述された「おかえりのうた」では、歌に入ってから、ところどころの指番号が指くぐりの運指であることは理解できていた。だが、前奏の 2 小節目「ソ」の上の指番号 5 の意味を明確に理解できておらず、弾きづらいと感じたまま練習をすすめて苦労していた。ここで、指に合った、そして理想の表現に合った指使いに変更することを学ぶ場面が見られた。それは、筆者から他の指使いの



（譜例 2）「おかえりのうた」前奏の右手指使いの提案

出典：神原雅之・鈴木恵津子編著、幼稚園教諭・保育士養成課程「幼児のための音楽教育」、教育芸術社、2010、p.39 より一部転載

上 2 段の指番号は筆者記入

提案を受け、学生は弾きながら自分が表現したい演奏はどちらの指使いが良いのかを考えた。そして、5 指から 5 指に飛ぶ方法は音が切れるため、自分の好む演奏表現ではないとの理由により、上の指くぐりのパターンを選択した。指くぐりの指使い部分を○で囲んで示す（譜例 2）。

#### d. 長期の個人練習後

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による緊急事態宣言の発令により、対面授業開始が 6 月からとなる。学生にとっては予定外の 1 月から 6 月までの 5 か月以上個人で自主練習を重ねる期間となった。

##### 5-1-d 事例 2「朝のうた」

この自主練習期間の取り組み曲の中に「朝のうた」があった。（本人選曲）本人が苦手とする付点のリズムも多く、その上、更に前奏の楽譜に書いてある指使いでは、2 小節目の「ソ」から「ド」の音の間が、手が小さいことで 3 指から 4 指を開いて音をつなげて弾くことに困難をきたし、音が途中で切れてしまうことが本人は納得できず困っていた。

そのため、筆者がいくつかの指使いの提案をした。その中から本人が弾いてどの指使いにするかを選択した結果、「ソ」と「ド」が切れないように弾きたいと発言した。すなわち、本人の音の流れに対する強いこだわりが生じたため、最終的に上段の指くぐりを（譜例 3）を選択したといえる。この指使いの選択により、3 指と 4 指を開く困難も回避でき、自分の思うような演奏が楽にできるようになったと考えられる。

1 年次後期終了頃に課題「おかえりのうた」で、すでに指使いの工夫と変更を経験していたが、その時の本人の状況は「おかえりのうた」に限定された理解であり、「指使い」の普遍的な重要性まで理解が及ばなかったと考えられる。自分が弾きたい演奏表現する上で、指使いの工夫は基本的でかつ有効的な方



（譜例 3）「朝のうた」前奏の右手

：指くぐり（○囲み）の提案

出典：Ibid. (p.6 譜例 2) ただし p.37 より一部転載  
上段指番号は筆者記入

法であるが、昨年の段階ではこのことに気づいておらず、自身で指使いを考えるとという段階には至っていなかったのである。

学生個々のピアノ学習能力や技術習得能力には個人差があるため一様に結論付けられないが、今回のこの学生は初学者であった 1 年目に熱心に課題に取り組み、学習ペースをつかんだ。しかし、2 年目は予定外の長期の自宅練習によって、友人や指導者からの助言が得られず、そのことによって技術習得能力の獲得まで時間を要し、結果として学習の停滞につながったのではないかと考える。

学生は、課題曲「朝のうた」に取り組んだ 1 か月後に課題曲「夕やけこやけ」の取り組みでは、練習過程と演奏に変化が見られ、技術習得能力の向上が見られた。このことから、1 名のケースではあるが、指使いの指導に適度な間隔で時間を費やせば、指使いの工夫と選択力は早期に身に付く可能性が考えられる。

#### e. 指使いの意識変化と工夫力の獲得

授業が再開され、定期的に指導できる環境になり、前述の「朝のうた」から 1 か月後の 3 回目の授業は「夕やけこやけ」の曲であった。

ここで、筆者は 2 つの点（e-1, e-2）からこの学生の指使いに関する意識の変化と上達の可能性を認めた。

ここに学生本人の書き込みのある楽譜を示す。特に注目した箇所を囲んだ（譜例 4）。

1 ゆうやけこやけでひがくれてやまの  
2 こどもがかえったあとからはまいるい

A  
F G7 C  
おてらのかねがなる  
おおきなおつきさま

B  
F C  
おーててつないで  
ことりがゆめを

C Dm7 C G7 C  
みなかえろ  
みるころは

からすといっしょにかえりましよう  
そらにはきらきらかんのほし

前奏

(譜例4)「夕やけこやけ」

出典：Ibid. (p.6 譜例2) ただし p.83 より

#### e-1 指番号の書き込み

1 段目右手のある部分以外ほとんど全ての音の上に指番号を書き込んでいる。不安の表れと推測されるが、決まった指で安心して反復練習する方法を実践し、これが自分に合った練習方法であることに落ち着いたようだった。

#### e-2 指使いの工夫と決定

後に修正した箇所もあるが、自分なりの根拠のもと、指使いを決定していた。

囲み A：1 小節目の「ド」を 4 指にした根

拠は 5 指の使用を回避したからと思われる。同じ音は同じ指で弾きたいという理由で、1 小節目の「ド」と、3 小節目の「ド」は 4 指にしたと考えられる。しかし、本人は 3 指から 4 指と開くため、より弾きにくいと感じつつ、指使いの選択に自信を持って十分に納得していなかったことが理解できる。最終的に、筆者の 5 指の提案と 2 パターン弾き比べた結果、本人はよりスムーズな演奏ができた「ド」を 5 指で弾く指使いに変更した。

囲み B：ここの「ソ」は多くの方が 1 指で



弾くが、学生は2指を選択した。同じ音は同じ指で弾きたいことが理由と考えられる。**囲み C** の、2 拍目に印刷された指使い「2 指」から遡って考えたようだ。その背景として、同じ音において指番号を変えて弾くと、指かえの瞬間に意識が指に移ってしまい、歌唱しにくいと感じることが考えられる。同じ指使いで弾くことによりピアノに対する不安が軽減され、歌唱が安定するという考え方には、ピアノにまだ不安のある初学者なりの根拠がある。

Q8 でこの曲を「指使いに苦勞した印象が強い」と答えているが、この「苦勞した印象」から、本人の能力獲得の手応えを感じ取ることができる。本人は指使いを以前よりも強く意識し、更に理想の音楽表現についても考えて課題に取り組むことができた。この評価は、指導者である筆者が学生の演奏を聴いた結果から得られたものである。今回のケースは、学生が明確な目的をもって指使いを検討する力を獲得したと思われる第一歩といえる。

## 5-2 考察のまとめ

ピアノ初学者は技術的な不安をかかえつつ練習に取り組む。指導者が初学者の指導の初期段階から、細かい場面における指使いの意味、及びその実践によりどのような演奏表現ができるかについて反復して指導することにより、他者の援助なしでも理想の演奏表現が目指せる基礎力を個人練習で獲得できると考える。このことは「夕やけこやけ」の事例から明らかになった。まさに筆者が目標とする指導である。

今回は前述したように、想定外の長期自主練習期間が発生したため、習得までに時間を要した。学生の「朝のうた」から「夕やけこやけ」までの期間の学習成果を考えると、もし予定通り 4 月から同様の指導が可能であれば、2 年次の 6 月ごろには指使いの工夫が自分でできた可能性が考えられる。更に多くの課題曲の練習により、理想とする演奏表現が可能となる適切な

指使いの工夫と選択、及び決定力が定着すると考えられる。そしてより豊かな演奏表現の可能性が広がると推測する。

学生の能力獲得にとって、学習には計画的な時間配分が必要なため、今回のような想定外の長期自主練習期間が生じると、指導者には指導の工夫が求められると考える。

## 6. まとめ

楽譜には指使い番号が印刷されているが、その番号で演奏せねばならないということはない。自分に合う指使いを工夫、検討、決定する力が獲得できれば、演奏への不安や練習時の戸惑いを回避することができ、演奏に対して自信が持て、更に表現への意欲につながるが、一人の学生の 2 年間の観察からわかった。

そして、初学者に対するピアノ指導において、教員が初期段階から指使いを意識することにより、学習者は個人練習で指使いを意識するようになる。学生が指使いを意識する段階で、学生の表現が改善される様子がどのように顕在化されるか、一件のデータから確認した。

今回は、学生自身が選曲した弾き歌いの曲について指導を進めたが、指導の節目で教員側から新たな課題曲を提案することにより、指使いの工夫と選択能力の獲得は効果的に進められると考える。今後の指導にとってヒントとなった。

これまで、指使いに焦点を当てた指導により学生の演奏表現が向上する様子を述べてきた。この指導により、学生が楽譜を以前より能動的に読み取ろうとする様子が確認できた。このことから、今回は被験者 1 名の検討であったが、指使いに焦点を当てた指導がピアノ初学者の学習を活性化する可能性が示されたといえる。

## 注

- 1) 2020 年 4 月より新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による緊急事態宣言発令によ

り対面授業停止。半数の対面授業回が課題提出方法になった。後期も同様の理由により記述の授業回数となる。

- 2) 神原雅之・鈴木恵津子編著 幼稚園教諭・保育士養成過程「幼児のための音楽教育」教育芸術社 2010

## 参考文献

- 木村祐子（2020）幼稚園教諭・保育士を目指す学生のためのピアノ指導法—愛情ある教育指導—、千葉敬愛短期大学紀要（42）（1）35-39
- 中武亮子・後藤裕子（2013）保育者養成校における保育技術向上のための一提案（2）～保育現場で必要とされる弾き歌いの技術習得を目指して～、宮崎学園短期大学紀要（6）35-53
- 中村礼香（2017）保育者養成校における学生のピアノに関する意識調査、鹿児島女子短期大学紀要 103-108
- 仲嶺まり子（2014）こどものうた弾き歌い指導における副教材の活用について—「指使いサブノート」導入の試みを通して—、別府大学短期大学部紀要（33）133-141
- 三好優美子（2012）子どもの歌のピアノ演奏における運指指導の取り組み—「ミソラド＝1235」ポジションの実践を通して—、東京女子体育大学紀要（47）95-101
- 村木洋子（2013）歌唱共通教材（小学音楽）旋律の運指について—ピアノ入門者のための—、山梨県立大学人間福祉学部紀要（8）49-56

Moderato.

88

*dolce*

*f* *p* *pp*

(資料 1) バイエル 88 番

出典：Ibid. (p.6 譜例 1) p.66 より

C 8va *mf* *f* F C F

1 きょー もた のしく す み ました な か よ し こ よ し で  
2 お り が み つ み き も か た づ けて お か え り お し た く

左手は軽くスタッカートぎみに

C G C *mf* 1 2 F *f* C G 2 C

か え り ま し ょ う せ ん せ い さ よ な ら ま た ま た あ し た  
で き ま し た み な さ ん

(資料 2) 「おかえりのうた」

出典：Ibid. (p.6 譜例 2) p.39 より

The first system of the musical score is in 2/4 time. The right hand starts with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The first measure has a forte (f) dynamic and a C chord. The second measure has a G7 chord. The third measure has a C chord. The fourth measure has a mezzo-forte (mf) dynamic and a 5-finger pattern. The left hand starts with a bass clef and a key signature of one sharp (F#). The first measure has a C chord. The second measure has a G7 chord. The third measure has a C chord. The fourth measure has a 5-finger pattern. The lyrics '1・2 せん せ い' are written below the right hand.

左手は軽くスタッカートぎみに

The second system of the musical score is in 2/4 time. The right hand starts with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The first measure has a C chord. The second measure has a F chord. The third measure has a C chord. The fourth measure has a V (accusative) and a 1-finger pattern. The fifth measure has a 2-finger pattern. The sixth measure has a F chord (with a note in parentheses indicating it is the 2nd time) and a 2-finger pattern. The left hand starts with a bass clef and a key signature of one sharp (F#). The first measure has a C chord. The second measure has a F chord. The third measure has a C chord. The fourth measure has a C chord. The fifth measure has a C chord. The sixth measure has a C chord. The lyrics 'お はよう み なさ ん お はよう (お はな も に こに こと' are written below the right hand.

The third system of the musical score is in 2/4 time. The right hand starts with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The first measure has a C chord and a 1-finger pattern. The second measure has a G chord and a 3-finger pattern. The third measure has a C chord and a V (accusative) and a 1-finger pattern. The fourth measure has a F chord. The fifth measure has a G7 chord. The sixth measure has a C chord. The left hand starts with a bass clef and a key signature of one sharp (F#). The first measure has a C chord. The second measure has a G chord. The third measure has a C chord. The fourth measure has a F chord. The fifth measure has a G7 chord. The sixth measure has a C chord. The lyrics 'わ らっ て い ます } お は よう お は よ う' are written below the right hand.

(資料3)「朝のうた」

出典：Ibid. (p.6 譜例2) ただし p.37 より